

中学柔道選手を対象とした上肢外傷の受傷状況に関する アンケート調査

○佐々木 英嗣(ささき えいじ) (MD)¹⁾, 津田 英一 (MD)¹⁾, 山本 祐司 (MD)¹⁾,
前田 周吾 (MD)¹⁾, 千葉 大輔 (MD)¹⁾, 岡村 良久 (MD)²⁾, 石橋 恭之 (MD)¹⁾

¹⁾ 弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座

²⁾ 青森県立あすなろ医療養育センター 整形外科

【背景】

柔道に関連した外傷・障害は発生頻度が高く、下肢や腰部に加え上肢の受傷機会も多いが、その受傷機転については不明な点が多い。本調査の目的は中学柔道選手における上肢外傷の発生頻度とその状況を明らかにすることである。

【対象】

対象は青森県中学柔道選手 301 名中、中学入学後に上肢に受傷歴のあった 63 名、70 件である。自記式アンケートにより受傷部位、受傷時学年、関連した技や受け・取り、受傷状況について調査した。

【結果】

受傷部位は肩関節 22 件、肘関節 13 件、手・手関節 35 件であった。1 年生時の受傷が 62% と最も多く、91% が練習中に発生していた。受傷原因に関しては、立技では投げられた際に手をつくか、巻き込まれての受傷が多く、背負い投げが 16 例 (32.7%) と最多であった。次いで多かったのは寝技での受傷で 12 例 (24.5%) であった。受傷者の 81% はいずれかの診療機関を受診していたが、医院・病院を受診していたのは 41% のみであった。

【考察】

本調査より中学柔道選手は入学後より約 2 割の選手が上肢の外傷を経験していた。全学年を通しての調査であったが、その半数以上は 1 年生時の受傷であった。これまで上肢には背負い投げなどの反復動作によって肘・肩関節障害が多く発生すると報告されてきたが、中学柔道選手においては投げ技による外傷も肘・肩関節に多く発生することが明らかとなった。初心者では肩の外傷が多いとの報告もあり、部活動や体育において、受け身や俊敏性の未熟なままに競技を行うことは上肢外傷のリスクとなる可能性が考えられた。